

令和8年度 京都乙訓農業改良普及センター 普及指導計画概要一覧表

普及計画課題		普及指導対象	普及指導事項	内 容
重点計画	課題名：担い手の定着と経営改善への支援 【人・組織】	新規就農者等（概ね就農５年までの農業者：研修中を含む） １０名程度/年	新規就農者等の営農継続に向けた基礎講座の開催	新規就農者が農業に必要な知識や技術を習得し、営農を継続できるよう支援する。
		経営力アップを目指す農業者 ３名	経営力アップを目指す農業者への個別目標達成に向けた濃密指導	経営力アップを目指す農業者が経営改善のための個別目標を達成し、地域の担い手として経営基盤を確立できるよう支援する。
		農福連携により経営改善を目指す農業者等（福祉関係者を含む） 数名	農福連携による経営改善（発展）に向けた支援	福祉分野の多様な人材に活躍してもらうことで、農業者が経営改善（発展）できるよう支援する。
	課題名：京おくらの高品質安定生産と部会活動強化の支援 【もの・販路】	京おくら出荷部会　２４戸 （伏見区淀・羽束師・洛南・向島、西京区大原野、向日市、長岡京市、大山崎町）	京おくらの高品質安定生産	盛夏期以降の安定生産に向けた品種比較や環境にやさしい病害虫防除の技術確立等により部会員の生産技術向上を支援する。
			京おくら出荷部会の活動強化	新規生産者の部会への加入促進・定着及び部会員の個別面積の拡大による部会活動の強化を支援する。
個別計画	課題名：きぬむすめの種子生産に向けた地域技術確立（記録・データ蓄積） 【もの・販路】	‘きぬむすめ’ 種子生産者　８名	きぬむすめの種子生産に向けた生育データの蓄積	「きぬむすめ」の慣らし栽培の取組に合わせて、生産者が自信を持って種子生産に取り組むための京北の土壌や気候に合った栽培マニュアルを作成し、統一技術で生産できるよう支援する。
	課題名：京はたけ菜の生産拡大に向けた栽培支援 【もの・販路】	京はたけ菜出荷部会12戸（予定）	京はたけ菜の栽培支援	京はたけ菜は令和７年にブランド產品に認証され、管内の広域を対象に産地を拡大し生産振興を図っているが、栽培技術が確立していないため、生産拡大及びブランド出荷期間の安定生産に向けた支援を行う。

計 画 課 題		対 象	内 容
調査研究計画	京おくらにおける農福連携ハブ型出荷調製スキーム作りに向けた条件検討	西京区大原野、向日市、長岡京市、大山崎町 京おくら出荷部会12戸及び福祉事業所	農福連携を活用して京おくらの選果場機能を担えるかを検討する。具体的には、出荷調製のハブとなる機関を新たに設け、農業者が京おくらをハブ機関に持ち込こむことで、ハブ機関または福祉事業所で出荷調製作業を行うスキームの可能性を探る。
	京おくらの高温耐性及び作業性における品種比較	京都市右京区西京極 野菜等多品目栽培農家 １戸	京おくらの現行品種（グリーンソード）より早生かつ草丈が低いとされる品種について、初期収量、高温耐性、果実品質及び作業性について検討し、より有利な生産につながる品種を探索する。【高温対策実証ほ設置事業】
	京おくらでの黄色ＬＥＤを用いたオオタバコガ防除効果の検討	京都市伏見区淀 京おくら生産農家 １戸	京おくらの害虫では、９月以降にオオタバコガによる果実の食害により、可販果が減少することが問題となっている。そこで、黄色ＬＥＤの夜間照射により、オオタバコガの飛翔を抑制し、オクラの被害を軽減できるか検証し、普及への足掛かりとする。【高温対策実証ほ設置事業】
	京はたけ菜の安定生産に向けた作型の検討	京都市伏見区羽束師、京都市西京区大原野 京はたけ菜生産者 ２戸	１月～３月のブランド出荷期間の安定生産に向けて京はたけ菜の栽培ごよみを再検討するため、複数の時期に播種した京はたけ菜の出荷に要する期間や気温等の生育環境を調査する。【高温対策実証ほ設置事業】
	除草ロボと水田ゲートの効果評価	京都市右京区京北 水稲生産者 １戸（水稲担い手協議会）	水稲農業技術協議会では「農業成分数5回以内」を目標としているが、R7年産米では平均6.7回となり、さらなる低減が課題となっているため、水田除草ロボットの導入効果（雑草抑制効果・適用時期・雑草の種類別効果）を調査するとともに、有機志向や野菜農家など多様な担い手への情報提供を行う。【高温対策実証ほ設置事業】
	京都府オリジナルイチゴ品種の現地適応性の検証	京都市西京区 種子繁殖型イチゴ品種栽培農家 ２戸	三好アグリテックが育成した、従来品種より花芽分化への低温要求度が低く花芽分化が揃う種子繁殖型の新系統を試作し、現地適応性を検討する。【高温対策実証ほ設置事業】
	すぐき菜での土壌改良剤施用によるパーティシリウム黒点病防除	京都市北区 すぐき菜栽培農家 ３戸	地域特産すぐき菜栽培では、近年連作等により、一部ほ場でパーティシリウム黒点病が発生し、収量等に大きく影響している。土壌消毒や水田との輪作等により防除しているが、処理の省力化が図れ同程度の防除効果が期待できる方法が求められているため、土壌改良剤（元素系硫黄）の施用により土壌のpH調整（弱酸性化）を図り、防除効果等を確認して普及性を検討する。
	タケを加害するノメイガ類の防除体制の構築に向けた実態把握調査	管内たけのこ生産者	ノメイガ類の発生時期を把握するとともに、防除を実施した生産者に聞き取りを実施し、防除のタイミング、回数と防除効果について調査する。